



宮島を訪れた観光客に道案内をする「宮島おもてなし隊」隊員の清信舞(きよのぶ・まい)さん。「笑顔を大事に、相手の気持ちになることを心がけています。宮島を訪れた人が、もう一度来たいと思ってもらえるようなおもてなしをしたいと思います」と、話してくれた。

4

ボランティアから発信ー

はつかいち縦断みやじま国際パワートライアスロン
支えなく、
ゴールまでは
たどり着けない

はつかいち縦断みやじま国際パワー
トライアスロン大会。
「ボランティアの支えなくして、
ゴールまではたどり着けない」。
多くの選手は、そう言い切る。
招待選手として4年、このレースを駆け抜けた
ペン・ヘンダーソン選手とラニ・タニモト選手。
この二人がレースで活躍できた裏には、
多くのボランティアの姿があった。



写真1 協会の会員は「おかえりなさい」という気持ちで出迎え、励まし、レースに送り出している。写真は会員のアーチをくぐるペン選手。会員ともすでに顔なじみだ。写真2 料理は、どれも個人が家庭から持ってきたもの。「この食事を楽しむのひとつ。懐かしい味です」と二人は話す。



写真3 海外でのレースは、言葉の壁もあり、選手にとっては不安も大きい。その不安を少しでも取り除き、レースに集中できるように招待選手と心の触れ合いを行っている。

招待選手をサポート

レースを影で支える

はつかいち縦断みやじま国際
パワートライアスロン大会。
この大会では、第1回目から
招待選手を呼んでいる。
外国の地で過酷なレースを
闘う招待選手をサポートしよ
うと、廿日市市国際交流協会
では第1回目の大会から、
レース前に「おもてなしパ
ーティー」を開いている。
今年の招待選手は、ペン・
ヘンダーソン選手とラニ・タ
ニモト選手。二人とも第2回
大会から4年連続で招待選手
となっているため、このパ
ーティーも4度目。しかも、2
年前に二人は結婚し、家族と
なったことで、まさに家族ぐ
るみの付き合いとなっている。
「当日のレースを静かに迎
えることができるのは、リ
ラックスした時間を過ごせる
おかげ、このレースは、ア
ウェイではなく、ホーム」二
人はその声を揃えた。

毎年、このレースに出る楽しみの ひとつがボランティアの皆さんに会うこと

たくさんのボラン
ティアの方々が、全
力で選手を支えてく
れる。この大会がすば
らしい理由がここにあ
ります。
レース中の声援が
励みになりますし、そ
の見慣れた顔を見つけ
ると元気が出て、背中
を押してくれます。毎
年、無事にゴールでき
るのも彼らのおかげ。
わたしの一番の応援者
だと思っています。



Penn Henderson
ペン・ヘンダーソン選手(40歳)
今大会では総合3位。2年前にラ
ニ・タニモト選手と結婚し、夫婦
で招待選手となっている。



Rani Tanimoto
ラニ・タニモト選手(36歳)
曾祖母が広島県出身。今大会で
は4時間50分56秒で女子の部優勝。

彼らはビッグサポーターであり、 チアリーダーです

この地は曾祖父の故
郷でもあり、レースに
参加できることを誇り
に思っています。
ボランティアの方々
のおかげでリラックス
してレースに臨めます。
今年もまた懐かしい顔
に出会い、「帰ってきた
」という印象です。
彼らは、ビッグサ
ポーターであり、チ
アリーダーです。彼
らには、毎年レースで
のエネルギーをもらっ
ています。



廿日市市国際交流協会
事務局 川本 恵子さん
協会では、トライアスロン大会
のもてなし部会として、外国から
の招待選手が本来の力を発揮でき
るようお手伝いをしています。
この歓迎パーティーは、当初は、
協会員の自宅で行ってました。
料理も個人が各家庭で作った手料
理を持ち寄り、親しんでもらい、
交流することを目的に行ってきま
した。招待選手と一般の方がなご
やかに交流できるようにすることが
わたしたちの役目です。

廿日市市国際交流協会

廿日市市住吉二丁目2-16
(廿日市市 市民活動センター内)
☎0116



「あなたの地域には、
他のまちの人に自慢できるものがありますか？」
「いや、この辺には何もないけえのおー」
そう答える人は少なくないかも知れませんが、
しかし、実は、見慣れているだけで、
普段の生活の中にも、
他から見ればすごいもの、魅力的なものは、
数多く存在しています。
今回の特集テーマは、「おもてなし」。
このまちを愛している人たちが、
おもてなしの心で、
地域資源を磨いたり、
新たに人の手を加えたりして
その魅力を
訪れた人に伝えている姿を特集しました。
今回紹介させていただいたのは、ほんの一部。
まだまだ、このまちには
たくさんの地域資源が眠っています。
その可能性は無限大！。
たくさんの地域資源を活用することで、
「いつか行ってみたいまち」から、
「もう一度訪れたいまち」へ、
そして、
「何度も訪れたいまち」に、
なっていくと信じています。